



城南まちづくり 協議会だより

新年あいさつ

第68号

2026年(令和8年)1月1日
城南まちづくり協議会事務局
(城南まちづくり拠点施設内)
☎ 0594-22-0034

一人ひとりの力合わせと心合わせ

城南まちづくり協議会 会長 森田 則夫

令和8年、2026年の年頭にあたりご挨拶申し上げます。

昨年は、団塊の世代が一斉に後期高齢者となり、ますます介護や医療などの社会保障費の増大に拍車がかかっています。

今年は60年ぶりの丙午で、前回の丙午では出生率が25%減少したことですが、令和の丙午はどうなることでしょうか。私たちは現在、人口減少と超高齢化社会の避けられない時代の峠にあり、「助け合い・支え合い」により、みんなの持てる力を出し合う事が必要不可欠となってきています。

城南まちづくり協議会では「地域の魅力度」「地域の解決力」「地域の愛着度」を、高める事業に取り組んでいますが、これまでの様な受動的参加ではなく、自らができる事を提案していただく能動的参加の活動展開を取り入れながら、一人ひとりの力合わせと心合わせで、明日の城南地域の活性化を図っていきたいと思います。

引き続き、皆さま方のご理解ご協力をお願いするとともに、ご健勝でのご活躍をお祈り申し上げます。

つながりと支えあいで 安心して暮らせる城南へ

城南地区自治会連合会 会長 後藤 正利

新年あけましておめでとうございます。

健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は記録的な猛暑で、局所的な豪雨により冠水する地域もあり、城南地区の幹線道路では、水に浸かり動けなくなった自動車を目の当たりにしました。また、南海トラフ地震の新たな被害想定では、地震発生率も引き上げられ、緊迫性がより高まっています。

そんな中、城南地区自治会連合会では昨年、久米地区の自治会と合同で、防災訓練「広域避難訓練・浸水想定区域外地区への避難」を実施しました。津波などの災害から、命を守るために迅速な避難行動を学び、避難所開設にあたり様々な避難者を想定した訓練をしました。近年、地震や豪雨、火災など予測できない災害が各地で発生しています。自分の身は自分で守り、かつ大切な人の命を守るには、周りの方々との助け合いや迅速な行動ができるように、日々の訓練は欠かせないものだと思います。

最後になりますが、本年が災害のない穏やかな一年になることを願って、年頭のあいさつといたします。

幸せに暮らせるまちづくり

城南地区社会福祉協議会 会長 松尾 久雄

新年あけましておめでとうございます、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年開催した「健康づくりハイキング」や「福祉のつどい」などには、大勢のご参加をいただき、皆さんに楽しく過ごしていただけたものと喜んでおります。また、赤い羽根共同募金の際は、皆さまから多大なご寄付をいただき厚くお礼申し上げます。

今後も、少子高齢化の急速な進展や人口減少により、福祉を取り巻く環境はめまぐるしく変化するものと思いますが、新たな気持ちで地域福祉の充実のため、一人ひとりが安心して幸せに暮らせるまちを実現するため、地域の皆さんと共に取り組んでいきたいと思いますので、引き続きよろしくお願ひいたします。

本年も、皆さま方のご健康とご多幸を祈念いたしまして、年頭のあいさつといたします。

城南の地名

安永

城南神社の由緒には、壬申の乱の時、天武天皇のお言葉(永く安らかにつづく里)により、安永の地名がたてられたとの言い伝えが残されている。

和泉

「桑名郡志」には「田間に一泉脈を発す。涸れず、村名之に基す」と記されている。町屋川の伏流水が豊富に流れしており、泉が噴き出していた。また、地蔵井水が和泉の地から発しており、古くから農業用水の役割を果してきた。

小泉

福江新田の北に位置し、小泉の耕地は、福江新田内に散在している。元禄郷帳では、和泉村枝郷小泉新田とあるところから、和泉から独立したと思われる。

小貝須

名のとおり、洲の浜に蛤、浅利、蜆の貝を多く産出したところから小貝須の地名になったと思われる。その貝殻を焼き、石灰状にして家や蔵の白壁用に重宝がされていたとの歴史も残されている。

大貝須

小貝須村の南にあって、元禄郷帳、天保郷帳には、小貝須村枝郷とあるところから、その後開発が進み、独立したと思われる。

福地

町屋川の河口で元は海浜だった所を、寛保元年(1714年)に開発した低湿地。文政10年(1827年)の桑名両郷村案内帳には、大貝須新田の項に含まれて記載されている。

萱町

福地新田の西に位置し、元は海浜だった所を開発。桑名城下の萱町の住人により開発されたので地名になったとされている。

福江

萱町新田の北に位置し、開発年代は不詳であるが、享和2年(1802年)の「久波奈名所図会」には地名が記されている。

江戸時代文政10年、現在の城南干拓地の海浜地には、一之新田、末広新田、福岡新田、太平新田、福本新田の五つの新田が存在していたが、万延元年(1860年)の洪水によりすべて荒廃してしまった。明治に入り、これらは福地新田に併合され、それぞれ小字名となった。その後昭和21年(1946年)から開始された干拓事業によって復興され、現在では独立した福岡町、太平町となっている。

はなのまちづくり城南文化祭

11/30
日



HANAMACHI(はなのまちづくりin城南)を、まちづくり拠点施設で開催しました。

地域活動部会では、無料でパンジーの苗(200株)を配布するとともに、つきたてのお餅をふるまい、餅つきパーティーも行いました。初めて餅つきを体験した子どもたちは、「よいしょー」の掛け声に合わせ、重い杵を力いっぱい振り下ろしていました。

また当日は、拠点施設を中心に活動しているサークルの方々の発表会(文化祭)も同時開催し、多くの方にお越しいただきました。